

博物館DXがみんなを結ぶ

2024年6月21日(金)

13:00-16:35(開場12:30)

会場: 帝京大学八王子キャンパス

ソラティオスクエア 小ホール(先着450名)

参加無料 事前申し込み不要

グローバル化やICT環境の急速な発展、普及を契機に、知識や情報をめぐる社会情勢は常に
変革しています。このような社会の変革において、博物館ではデジタル技術の応用、データのデ
ジタル化が進み、その結果、研究は深化し、データはデジタルアーカイブとして記録管理され、イ
ンターネット上で提供するといった、IT化が進められました。こうした情報の応用や管理についての
議論は、これまで当学会においても進めてきたところです。

こうした中で、新型コロナウイルス感染症拡大を契機に、博物館においてもデジタルトランス
フォーメーション(DX)の実現が注目され、様々な取り組みが試みられています。その結果、新た
な展示・公開、利用者、地域との連携が見え、コロナ渦で希薄になった「資料」「利用者」「地域」と
の結びつきを取り戻しつつあります。しかし、インバウンド需要の増大、観光需要対応など、更なる
発展が求められています。

そこで、本シンポジウムでは博物館活動の根幹をなしている展示・公開を皮切りとして、「資料」
「利用者」「地域」との結びつきをテーマとし、それぞれの成果と意義を認識、共有することを目的
とします。博物館DXのあり方を指し示したいと思います。

総合司会 間淵 創(国立文化財機構 文化財活用センター)

13:00 開催挨拶 本田 光子(文化財保存修復学会理事長)

13:05 趣旨説明 末森 薫(国立民族学博物館)

13:10 基調講演 「博物館とみんなを結ぶデジタル技術の未来」 今津 節生(奈良大学)

13:50 休憩

14:00 事例報告 「名品と結ぶ博物館DX」 大杉 栄嗣(大塚オーミ陶業株式会社)

「子どもたちと結ぶ博物館DX」 加藤 和歳(九州歴史資料館)

「地域と結ぶ博物館DX」 安室 喜弘(関西大学)

15:15 休憩

15:30 パネルディスカッション

コーディネーター 末森 薫

パネリスト 今津 節生・大杉 栄嗣・加藤 和歳・安室 喜弘

16:30 閉会挨拶 日高 真吾(文化財保存修復学会副理事長)

主催: 一般社団法人文化財保存修復学会 共催: 帝京大学 国立民族学博物館

お問い合わせ先 bunkazai@minpaku.ac.jp